



2019年5月4日 (土)

NO. 957号

本号3頁

## 憲法会議 憲法記念日に声明発す！

**今が正念場！3000万人署名をやりとげ、安倍9条改憲にとどめを！  
—施行72年目の憲法記念日にあたり呼びかけます—**

今日5月3日、日本国憲法施行72年目の記念日を迎えました。1945年8月、310万人の日本国民とアジアの2000万人以上の命を奪った侵略戦争が終わりました。その時の「戦争だけはイヤだ」という国民の思いを集めた憲法9条は、今も変わらず、国民の希望であり、世界の宝です。72年間国民は、憲法の平和と人権と民主主義の原則を根本から壊そうとする日米支配層に対して、それを許さず、憲法を日本の社会と政治に生かそうとたたかい続けて来ました。

2017年5月3日の安倍首相の9条改憲提言以降、日本国憲法は未曾有の危機を迎えています。安倍首相は党内ばかりか、国会演説でも、自衛隊員を前にした訓示などでも、憲法9条改憲への執念をむき出しにする発言を続けています。2月10日の自民党大会で、「自衛隊員の新規隊員募集に対して都道府県の6割以上が協力を拒否している」とウソをつき、「この状況を変えよう」と、新たな改憲論を主張し、改憲に意欲を示しました。自民党は289衆議院小選挙区支部に「憲法改正推進本部」を設置し、9条守ろうとする草の根の運動に対抗しようとしています。さらに、安倍内閣とマスメディアは、天皇の交代で天皇礼賛の一大キャンペーンを展開し、「新しい時代」と称して天皇を政治利用し、与野党合意の運営の慣例を破り、国民投票法案改正を呼び水に憲法審査会での改憲論議を強行しようとしています。

安倍首相の最大の野望は、憲法9条を改定し、日本をアメリカと共に世界のどこでも「戦争する国」へと改造することです。そのため、憲法9条改憲を執拗に狙うとともに、昨年12月18日決定の「新防衛大綱」「中期防」に示されたように、「専守防衛」の方針を投げ捨て、大軍拡をすすめ、「我が国が持てる力を総合する防衛態勢を構築する」と「挙国一致」の「戦争する国」づくりに邁進しています。

戦後日本が海外で武力行使しなかったのは、憲法9条が存在していたからに他なりません。「戦争はイヤ」は、国民の絶対的な思いです。だからこそ、「戦争法」に反対する運動以来、かつてない国民的共同のたたかいが繰り返されています。そして、「安倍政権の下での改憲反対」54% (4月11日発表 共同通信) と改憲反対が様々な世論調査でも多数を占めています。

憲法会議は、1965年3月6日結成以来、改憲に反対するとともに、憲法の蹂躪を許さず、憲法を守り生かす「憲法運動」を推進してきた立場から訴えます。今が正念場です。日本国憲法の意義を改めて確認し、3000万人署名を必ずやりとげ、目前の参議院選挙では市民と野党の共闘を広げ、強め、その力で改憲派を少数に追い込み、安倍改憲断念と安倍政権退陣に追い込むために奮闘しましょう。

2019年5月3日

憲法会議 (憲法改悪阻止各界連絡会議)

## 金子勝氏の声明作成に当たってのご意見

今回の声明作成にあたり、憲法会議の担当常任幹事の皆さんから多数のご意見をいただきました。その中で、金子勝担当常幹 (立正大学法学部名誉教授) からのご意見で、声明文が長すぎてしまう等の理由で反映できなかった部分ですが、貴重なご意見と思い紹介します。

○4月26日 4月30日から始まる天皇の交代のことで、マスメディアは天皇礼賛の一大キャンペーンを展開すると思われます。日本が天皇中心主義の国になってしまう状況がつけられる危険があ

りますので、その状況を阻止するために、マスメディアに自重を求め、国民には冷静な判断を求める声明を、是非お出しくださいますよう、切にお願い申し上げます。

○4月28日 天皇の「交代」を「代替わり」と言うのは、統治権者天皇に基づく考え方で、天皇が代わるとすべてのものが新しくなるというところから作られたものですが、国民主権の下では、天皇が代わってもすべてのものが新しくなるわけではありませんので、国民主権を軽視する「代替わり」という言葉は、使わない方がいいのではないのでしょうか。「交代」でいいのではないのでしょうか。

◆さらに、「天皇礼賛の一大キャンペーン」の部分に、次の文を追加するよう要請がありました。

マスメディアの為すべきことは、政権と歩調を合わせるのではなく、政権の暴走をたしなめ、天皇の交代を、日本国憲法の国民主権と政教分離の観点から、冷静に報道することである。国民は、日本国が主権者国民の国であることを踏まえて、天皇の交代に冷静に対処することが必要である。

## **全国各地で5・3憲法集会開催**

### **都内では、9条改憲を許すな！と65000人集う**

日本国憲法が施行されて72年となる3日、全国各地で安倍政権の9条改憲に反対する集会やパレード、講演会、学習会等が開催されました。東京では江東区の東京臨海広域防災講演で「平和といのちと人権を！5・3憲法集会」が開催され、昨年を上回る65000人が参加しました。

◇午前11時からイベントが開始。「自由に話そう！トークイベント」「こども憲法広場」などのサブステージが催されました。そして、憲法会議の書籍等販売のお店等、出店ブースでも各店が開店。

◇12時からはオープニングコンサート。「獄友イノセントバンド」の小室仁さん・こむろゆいさんら。そして、うじきつよしさん、内田勘太郎さんの「子供団」が登場し、コンサートを行いました。小室さんは「宝物の憲法を変えるなんてとんでもないことです」と語りました。

◇そして、13時からメイン集会が開始されました。主催者あいさつで、5・3憲法集会実行委員会の高田健氏は、安倍政権の改憲策動を私たちの運動で跳ね返して来たと強調し、「市民と野党の共同の力で今国会での改憲発議を阻止し、参院選で改憲勢力を打ち



倒そう」と訴えました。

次に、湯川れい子さん（作詞家・音楽評論家）、元山仁士郎さん（「辺野古」県民投票の会）、高山佳奈子さん（京都大学教授）、永田浩三さん（ジャーナリスト）のメインスピーカーが発言しました。湯川氏は、「戦争経験者として、憲法9条を守るために残りの人生をかけた。憲法に自衛隊を書き込むという、インチキを許してはいけません」と述べました。そして、元山氏は、米軍基地反対の圧倒的な民意は示されたが、工事は止まっていないと訴え、「民主主義とはいったい何なのか。憲法に書かれている、一人ひとりが尊重される社会をつくりましょう」と訴えました。

### **4党の代表らが安倍9条改憲阻止と安倍政権打倒を呼びかける！**

野党のあいさつでは、立憲民主党の枝野幸男代表、国民民主党の玉木雄一代表、日本共産党の志位和夫委員長、社民党の又市征治党首、「沖縄の風」の伊波洋一議員が壇上に勢ぞろいし、次々と訴えました。枝野氏は、「立憲主義が脅かされているという今の日本の状況を打破するためには、様々な違いを乗り越えて、権力を憲法で拘束するというまっとうな社会をつくるために、各党のみなさんと連携して安倍政権を倒す。その先頭に立つことをお約束します」と述べました。玉城氏は9条改憲では、「自衛隊を明記するだけで何も変わらないと安倍首相は説明しています。しかし、自衛権の範囲を無制限に拡大しようとしているのが今の自民党案です」と指摘。「みなさんと力を合わせていきます」と述べました。さらに、志位氏は、「安倍9条改憲のどこが問題か」と切り出し、9条改憲の条文案の問題点を指摘。「この決着は選挙でつけよう。安倍政権による9条改憲は許



さない—この一点で市民と野党の共闘を広げ、参院選で『安倍政治サヨナラ』の審判を下し、安倍政権もろとも9条改憲の企てを葬り、9条が生きる平和日本を一緒につくろう」と呼びかけました。

なお、集会には衆院会派「社会保障を立て直す国民会議」、玉城デニー沖縄県知事がメッセージを寄せました。

その後、市民連合の訴えを東京大学名誉教授の広渡慎吾さんが行い、「市民は、安倍政権に代わる政権を求めています。日本国憲法こそ、私たちがめざす新しい政治の選択肢を導くものです」と語りました。

さらにリレートークを①朝鮮高校無償化、②貧国格差、③フクシマから、④外国人労働者の実態とのテーマで、それぞれの課題でたたかっている市民が発言しました。

集会の最後に閉会あいさつと行動提起を5・3憲法集会実行委員会の福山真劫さんが行いました。集会終了後、参加者は台場コースと豊洲コースに分かれて、パレードを行いました。

※上の写真2枚は、東京憲法会議田中章史提供

## **安倍9条改憲NO！憲法審査会に自民党改憲案を「提示」させるな！**

### **5・9国会議員会館前行動にご参加を**

衆院憲法審査会が動き始めました。9日には憲法審が開かれ、民放連からの聴取も行われます。自民党などはこのあと、継続審議になっている改憲手続法の改正案の審議・採決を企てています。しかし、この問題は与党がねらう微修正で終わる問題ではありません。自民党らは、民放労連から参考人としての意見は聞くが、聞くだけ。改憲手続法の改正案にCM規制を反映させる意思はないようです。

また、自民党はその後の憲法審でみずからの改憲4項目の条文案の「提示」を狙い、憲法審での改憲論議を進めようとしています。萩生田自民党幹事長代行は「新しい時代になったら、憲法審査会をワイルドに進めたい」などと暴言を吐きました。私たちはこのような与党の企てを許すことはできません。

9日の午前中は衆院憲法審査会の傍聴行動を行います。また、夜には「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」と「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」共催で、国会議員会館前行動を行います。首都圏の皆さん、是非参加し、声を上げましょう。

日時：5月9日（木）18：30～

場所：衆議院第2議員会館前を中心に

内容：立憲野党各党の憲法審査会委員の挨拶と、市民団体の発言など。

※衆院憲法審査会の傍聴を希望される方は、前日の15時まで憲法会議まで、お名前と職業をお知らせください。電話 03-3261-9007 F A X 03-3261-5453

## **憲法記念日を前にした各社の世論調査 その2 朝日新聞**

### **改憲機運「高まっていない」72%**

朝日新聞社の憲法に関する全国世論調査によると、憲法を変える機運がどの程度高まっているか尋ねたところ、「あまり」と「まったく」を合わせた「高まっていない」は72%に上りました。安倍首相は2020年の改正憲法施行を目指していますが、有権者の意識は高まっていないことが改めて明確になりました。

- 改憲への機運について、「あまり」と「まったく」を合わせた「高まっていない」は72%でした。さらに、自民支持層でも「高まっていない」は61%、無党派層では77%に上りました。
- 9条を変えるほうがよいと思うかを尋ねると、「変えないほうがよい」は64%（昨年調査は63%）で、「変えるほうがよい」28%（同32%）を上回りました。
- 9条については、安倍首相が提案している自衛隊の存在を明記する改正案に、「反対」48%、「賛成」42%でした。昨年調査（反対53%、賛成39%）と同じく反対が多かったものの、賛否の差が縮まったとしています。自民、公明の支持層はいずれも賛成が6割でしたが、無党派層では反対56%（昨年は60%）、賛成31%（同31%）でした。
- 9条に自衛隊を明記する理由について、安倍首相は自衛隊の違憲論争を終わらせ、隊員が誇りを持って任務をまっとうできる環境を整えるため、と説明しています。こうした改憲理由について、「納得できる」は40%、「納得できない」は49%でした。